

③資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
情報システムの整備・ホームページの運用（情02）	企画情報部	55
専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（情03）	企画情報部	57
無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（無03）	無形文化遺産部	58
国際資料室の整備（セ08）	文化遺産国際協力センター	59
文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究（セ07）	文化遺産国際協力センター	60
所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（情05）	企画情報部	61
調査・研究成果の展示公開（黒田記念館）	企画情報部	63

情報システムの整備・ホームページの運用 (③情02-08-3/5)

目 的

文化財関係の情報を収集し、積極的に発信するために、ネットワーク環境におけるセキュリティの強化及び高速化を進めるなど、情報基盤の整備・拡充を図る。さらに研究所の研究・業務などの広報活動の一環として、ホームページの運用を充実させる。

成 果

1. 情報システムの整備

(1) システム管理

所内におけるシステムの運用については、システム管理者がシステム全体の日常的な運用をはじめ、保守契約等の協議、メールアドレスの管理を行った。またLAN委員会の協議を経て、中長期的な更新計画を策定した。さらにシステム管理室の空調機器の修繕、電気設備の追加を行った。

(2) ネットワーク環境の整備

現在のユーザー環境を維持しつつ、より効率的運用ができるよう、下記の通り、ネットワーク環境を整備した。

- ・フロアスイッチの更新
- ・センタスイッチの追加

(3) 機構における情報ネットワークの取り組み

独立行政法人国利文化財機構の情報化担当者会議に参画し、機構全体の情報セキュリティおよび運用手順の策定に努めた。

2. ホームページの運用

東京文化財研究所のホームページは、研究所における情報発信機能の一翼を担う重要なメディアであり、また文化財研究のデジタル・アーカイブとしての役割を果たす。とくに平成20年度はキッズページの試作、メールマガジン導入の準備など、ホームページの内容の充実を図った。平成20年度のホームページアクセス件数は1,405,278件で、平成19年度に比べ、約12万件減少した。ただし一人あたりの閲覧ページ数は昨年に比べ、ほぼ倍増していた。

ホームページアクセス件数の推移

平成20年度	1,405,278件
平成19年度	1,526,409件
平成18年度	1,355,306件
平成17年度	861,486件
平成16年度	726,381件

平成20年度月別のホームページアクセス件数

・ 4月	185,116件	・ 5月	176,511件	・ 6月	131,231件	・ 7月	122,211件
・ 8月	105,361件	・ 9月	102,600件	・ 10月	117,419件	・ 11月	110,444件
・ 12月	88,327件	・ 1月	91,949件	・ 2月	86,984件	・ 3月	87,125件

平成20年度の更新履歴

更 新 内 容	日本語版	英語版
活動報告	12	11
『年報』『概要』『ニュース』『ダイジェスト』（『ニュース』英語版）の刊行	6	6
職員の募集	7	0
各種研究会の開催	6	1
黒田記念館とそれに関する展示	3	1
情報システム	2	0
公開講座などの催し	2	0
資料室の公開	2	2
文化財の保存修復に関する成果展示	3	1
連絡	3	0
研究成果の刊行	1	0
合計	58	22

研究組織

- 勝木言一郎、綿田稔、江村知子、中村明子（以上、企画情報部）、横山隆史（管理部LAN委員）、俵木悟（無形文化財部LAN委員）、吉田直人、加藤雅人（以上、保存修復科学センターLAN委員）、二神葉子（文化遺産国際協力センターLAN委員）



東京文化財研究所活動報告2009年
トピックスページ（英語版）



東京文化財研究所ホームページ画面

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③情03-08-3/5）

目 的

企画情報部では(1)受け入れした文化財関連の図書などの文字資料、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、(2)閲覧室で月・水・金の週3回一般利用者への所蔵資料の提供、(3)データベースや検索システムの構築・運用を通常業務としている。前回の中期五カ年計画で定まった文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として、質の高い専門的アーカイブの拡充を図る。あわせて、上記アーカイブに必要な不可欠である画像形成技術等の継続的な更新を行い、最先端の研究活動を支援することを目的とする。

成 果

資料閲覧室の運営

文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として近現代美術関係文献および美術全集掲載図版目録のデータベース化、インターネット上での公開を目指して『日本美術年鑑』のテキスト化を行った。また、劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌のCD-ROM化をすすめるとともに、所蔵ガラス乾板のデジタル化にむけての点検・整理を行った。また、国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議を行った。

- ・ 図書の受入数：和漢書706件、洋書7件、展覧会図録・報告書等1,993件、雑誌2,191件(受入総数4,897件)
- ・ 目録所在情報：35種（作成件数68,523件、収録件数717,282件、公開件数702,511件）
- ・ インターネットで公開中の目録累計数：13種
- ・ 資料閲覧室の利用状況：公開日総数141日（利用者年間合計987人）

画像情報室

- ・ 他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。
- ・ デジタルコンテンツの多目的利用の一環である画像展示として東京文化財研究所エントランスパネル展示「洛中洛外図屏風(ロイヤル・オンタリオ美術館蔵)の修理について」(4/1-8/26)のための画像形成を行った。

その他

- ・ 06年度より継続の尾高鮮之助、和田新撮影フィルム画像を文化遺産国際協力センターの協力を得てデジタル化した。

企画情報部にて作成・更新中の35種データベース

所蔵和漢書（～07年）、受入和漢書（08年度分）、所蔵洋書、所蔵簡易図書、売立目録
 所蔵美術館博物館収蔵目録、和雑誌誌名、所蔵洋雑誌誌名、所蔵中国雑誌誌名
 所蔵韓国雑誌誌名、所蔵和雑誌巻号（～02年）、所蔵洋雑誌巻号（～05年）
 所蔵和雑誌巻号（03年以降）、所蔵洋雑誌巻号（06年以降）、所蔵中国雑誌巻号
 所蔵韓国雑誌巻号、所蔵地方公共団体刊行報告書、所蔵香取秀真資料関係
 展覧会（02年まで）、展覧会（03年以降）、近現代作家名、近現代展覧会開催情報（44年以降）
 写真原板、キャビネット写真、古美術文献目録（明治～65年）、近現代美術文献目録（59年～90年）
 美術館博物館名、東京文化財研究所年表、所蔵古美術展図録目次（89年～01年）、美術研究総目次
 所蔵近現代図録目次（48年～90年）、撮影調査票、古美術展覧会開催情報（44年以降）
 物故者記事、美術懇話会・開所記念展覧会出品目録

③資料作成・公開 Area16

インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中の13種データベース

美術関係図書

伝統芸能関係図書

保存修復関係図書

売立目録

展覧会カタログ

和雑誌

写真原板

美術関係文献

『保存科学』所載文献

伝統芸能関係三雑誌所載文献

『美術研究』所載文献

近現代美術展覧会開催情報

伝統楽器情報

研究組織

○田中淳、津田徹英、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷純、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-08-3/5）

目 的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

概 要

本年度は、これまでに蓄積されてきた資料に加え、平成17年度までに寄贈を受けたアナログテープの媒体転換を中心に実施した。とくに、新たに受入れが完了した音声記録に関しては、これまでの資料を補完する分野に重点を置き、デジタル化を進めると同時に、デジタル化音声資料へのインデックス付与も行った。また、無形文化遺産部に昨年寄贈された歌舞伎舞台写真の整理に着手した。

研究組織

○宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、俵木悟、菊池理予、土田牧子、綿貫潤、星野厚子（以上、無形文化遺産部）

国際資料室の整備 (③セ08-08-3/5)

本プロジェクトは、国際資料室に配置する外国の文化財や文化財保存修復事業に関する蔵書・資料の質及び量を充実させ、文化遺産国際協力センターでの関連の研究や事業に利用するとともに、国内外の関連分野の専門家が閲覧・利用できるようにする。同時に、資料のデータベース化を行い、利用者の便を図る。

1 資料の収集とデータベース化

目 的

文化財自体やその保存修復、機関・組織・法令などの保護制度、文化財の公開と活用、危機管理などの分野の書籍や報告書、会議録、地図など、文化財保護に関する資料や、文化財保存修復国際協力を行ううえで参考となる関連諸学に関する資料を収集する。資料の収集は本プロジェクトだけでなく、他のプロジェクトとも連携して行い、特にプロジェクトの対象とした地域については、現地語による資料も含めて重点的に収集を行う。

また、利用者の利便性の向上及び資料の適切な管理のため、収集資料のデータベース化を行う。

成 果

平成20年度はインド、インドネシア、中国などの文化財に関する資料及び世界遺産、保存科学、文化財保護制度などに関する書籍1,003点（和漢書347点、洋書656点）、雑誌235点の資料を収集し、データベース化した。

2 『国際資料室蔵書目録』の作成

目 的

今年度データベースに入力した図書および雑誌について、蔵書目録を作成する。

成 果

2009（平成21）年3月に、今年度に国際資料室で受け入れてデータベース化した1,003点（和漢書347点、洋書656点）の資料、及び国際資料室で所蔵する雑誌438種類を掲載した『国際資料室蔵書目録』を発行した。

目録作成数 1件

・『国際資料室蔵書目録』

研究組織

○二神葉子、清水真一、岡田健、山内和也、朽津信明、友田正彦（以上、文化遺産国際協力センター）



関野克氏旧蔵資料

文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究 (③セ07-08-3/5)

世界各地の文化財及びその保存修復に関する情報を収集・整理し、調査研究に活用するとともに、関連分野の専門家に対して効果的に発信していくことを目的にデータベースを作成する。

また、文化遺産国際協力センターでこれまでに実施してきた事業の成果をデータベース化して公開する。

1 情報の収集とデータベース化

目 的

世界各地、特に現在文化遺産国際協力センターで対象としている地域の遺跡を中心にデータベースを作成する。名称、種類、年代、所在地などの基礎的な属性情報のほか、保存修復履歴やその際の国際協力の有無といった付帯的な情報、さらに法令や保存管理計画などの関連の文献、写真や実測図、地図、衛星画像など総合的に情報を収集する。

成 果

平成13年度から収集を行っている世界各国の文化財保護に関連する法令について、引き続き法令を収集するとともに、日本の文化財保護法で用いられている分類を手がかりとして、昨年度に引き続き各国の法令が対象とする文化財による分類を行い、データベース化を実施している。

2 情報の発信

目 的

文化財保存修復や国際協力事業に携わっている専門家を対象に、文化遺産国際協力センターが行っている調査研究などの事業に関する成果を公開する。

成 果

これまでに和訳した世界各国の文化財保護に関連した法令の条文についてPDF化を行い、文化遺産国際協力センターのウェブサイト上で逐次公開している。また、印刷物としては、まず、文化遺産国際協力センターが文化遺産保護の専門家を招へいして研修を行うなどの国際協力事業を行っているイラクの文化財保護に関する法令をアラビア語から和訳し、「文化財保護関連法令集 イラク」として印刷・出版した。また、今年度に文化遺産保護に関する交流について教育・文化・科学省を相手側として合意書を締結したモンゴル、平成19年度に中央アジア5カ国を招いて「アジア文化遺産国際会議」を開催したウズベキスタンの法令についても、モンゴル語、ロシア語からそれぞれ和訳し、関連資料とともに「文化財保護関連法令シリーズ」として出版した。さらに、日本の文化財保護法について、日本語の条文とともに各条文に関連する判例の要旨を添付し、最新の改正を反映した英訳がなかったことから英訳を行い、「文化財保護関連法令シリーズ[3]」として出版した。なお、法令の翻訳にあたっては、あえて原語に忠実で説明的な直訳を心がけることで、日本語の類似の制度などとの混同を避ける工夫を図っている。このほか、平成13年度～17年度の「アジア文化財保存セミナー」報告書をPDF化した。さらに、文化遺産国際協力センターのウェブサイトで、最新の出版物の目次やプレスリリース等を掲載することで、研究成果を公開している。

刊行物 4件：・文化財保護関連法令集 イラク／・各国の文化財保護法令シリーズ[3] 日本【文化財保護法 英訳・主要判例要旨附】／・各国の文化財保護法令シリーズ[4] ウズベキスタン【文化遺産物件の保護と活用に関するウズベキスタン共和国法】／・各国の文化財保護法令シリーズ[5] モンゴル【モンゴル国の法律 文化遺産保護に関して】

研究組織

○二神葉子、清水真一、岡田健、山内和也、朽津信明、友田正彦、今井健一郎（以上、文化遺産国際協力センター）

所蔵目録出版・バーコード化・広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③情05-08-3/5）

目 的

『年報』『概要』『ニュース』など広報三誌の編集・刊行は、研究所が進める広報活動の中核に位置づけられる。それらの目的は、媒体に応じて、調査・研究、国際協力の推進、調査研究成果の発信、協力・助言など、研究所が担うさまざまな活動を、対外向けに情報発信することにある。またそれらのデータはホームページ上でもPDFファイル形式でも配信されている。

成 果

(1) 『年報』2007年度版の刊行

2007年度版の構成は2006年度版にならい、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。ただし独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合したことに伴い、2007年度版は「1. 機構」の「2. 機構の概要と職員」を改め、「7. 研究所関係資料」に「8. 平成19年度独立行政法人国立文化財機構に係る年度計画」を追加した。

(2) 『概要』2008年度版の刊行

『概要』の構成は2007年度にならい、組織、職員一覧、各部・センターの紹介、研修・助言・指導、大学院教育・公開講座、情報発信、刊行物、資料とした。またその文章は日英2カ国語を併記し、図版を多用した。2008年度版は、概要編集委員会の協力を得て編集が進められ、第1四半期に刊行された。

(3) 『東文研ニュース』の刊行

研究所の研究活動のうち速報性と公共性の高い記事、文化財の研究手法や研究所の歴史などを一般向けに解説したコラム、そして刊行物の案内などを四半期ごとに掲載した。編集は東文研ニュース編集委員会の協力を得て進められた。平成20年度の実績は下記の通りである。

No. 33 全16頁 2007年5月31日発行

No. 34 全16頁 2007年8月31日発行

No. 35 全20頁 2007年11月30日発行

No. 36 全16頁 2008年2月28日発行

また毎月、『活動報告』（Monthly Report）をそれぞれ日本語版・英語版のホームページ上に掲載するようにし、記事の速報性の確保につとめた。さらに『東文研ニュースダイジェスト』（英語版）を刊行し、海外の読者向けに情報発信を進めた。

(4) 子供向けパンフレット『東京文化財研究所ってどんなところ』の刊行

小学生・中学生を対象に子供向けパンフレットを刊行した。体裁は観音折り、全8ページで、内容は各部・センターの研究紹介、文化財や東京文化財研究所の解説からなる。子供向けパンフレットもPDFファイルのデータとして、ホームページ上からダウンロードできるようにした。また子供向けパンフレットおよびホームページのためにキャラクターやロゴマークを製作した。

(5) 広報誌の配布

広報誌は、文部科学省・文化庁各部局、都道府県教育委員会、国および都道府県の美術館・博物館、埋蔵文化財センター、文化財研究部門をもつ大学図書館、大使館、友好協会などに配布した。『概要』『ニュース』、

③資料作成・公開 Area19

そして子供向けパンフレットは、黒田記念館や研究所受付・資料閲覧室における配布を充実させ、一般向けの情報発信の向上につとめた。とくに『ニュース』は東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館、大分県立歴史博物館、東京芸術大学美術館、そして奈良文化財研究所に対し、配布数を増やし、より一層の情報発信につとめた。子供向けパンフレットについても、台東区立小学校・中学校に配布した。

(6) 『独立行政法人国立文化財機構概要』の編集協力

独立行政法人国立文化財機構の発足に伴い、『独立行政法人国立博物館概要』が『独立行政法人国立文化財機構概要』（以下『機構概要』）に改められた。そのため『機構概要』にも文化財研究所の紹介記事が掲載されることとなり、その編集を協力した。

(7) パネル展示の調整

研究所1階エントランスホールにおける研究成果の展示に関し、調整を進め、下記の通り実施した。

2008年3月－2008年8月 「洛中洛外図屏風(ロイヤル・オンタリオ美術館蔵)の修理 平成18年度在外日本古美術品保存修復事業」(企画情報部)

2008年8月－2009年3月 「世界遺産・龍門石窟保護のための国際協力―その足跡と成果―」(文化遺産国際協力センター)

2009年3月－ 「X線透過撮影による能管・龍笛の構造解明」(無形文化遺産部)

(8) 室名プレートの更新、アイキャッチ・パネルの設置

研究所受付前の室名プレートについて、日本語・英語表記を更新した。またアイキャッチ・パネルを設置し、来訪者を目的地に誘導する便宜を図った。

研究組織

○勝木言一郎、田中淳、山梨絵美子、塩谷純、津田徹英、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子(以上、企画情報部)



『東文研ニュースダイジェスト』



子供向けパンフレット
『東京文化財研究所ってどんなところ?』

調査・研究成果の展示公開（黒田記念館）

黒田記念室は、当研究所の創設に深く関わった帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であり、黒田清輝の油彩画、素描、写生帖等を収蔵公開している。

創立当時、主として黒田家から寄贈されたものは、油彩画125点、素描170点、写生帖等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なものは、「湖畔」「智・感・情」（以上2作品は、国指定重要文化財）「花野」「赤髪の少女」「もるる日影」「温室花壇」などである。

2007（平成19）年4月1日、独立行政法人国立文化財機構に統合されたこととともない、黒田記念館及び同館が所蔵していた作品は、東京国立博物館に移管された。しかしながら、黒田記念館、及び作品の公開のための業務と研究調査は、企画情報部研究員が同博物館の併任となって引き続き行うこととなった。平成20年度からは記念館1階の旧研究室で美術研究所時代に使用された家具、資料を展示するとともに、2階の一室で、黒田清輝に関するスライドショーを実施した。また、記念館2階の展示室を会場に、「特集展示 写された黒田清輝Ⅱ」と題して、平成18、19年度に遺族から寄贈を受けた黒田清輝関係写真等から27点を選び、原寸大に複製した画像を展示公開した（会期：2009年3月19日～7月9日）。

一般公開（無料）：毎週木・土曜日 午後1時～4時、特別公開：2008（平成20）年10月29日～11月3日、入場者数：19,038人（2008年4月3日～09年3月28日）

なお、黒田記念室のパフレット（A4サイズ、三つ折）を作成し、来館者に無料で配布した。また2009年2月19日から3月21日まで、来館者にアンケートを実施した。2,246人の来館者に対して、312人から回答を得た（来館者数の13.89%）。回答は、「満足した」及び「おおむね満足した」97.43%、「不満が残った」6人（1.6%）、その他であり、アンケート回答の97.43%が満足感を得たことになる。

・地方共催展・作品の貸与

当研究所は、黒田清輝の功績を記念し、あわせて地方文化の振興に資するため、1977（昭和52）年から「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝」展を年1回各地で行ってきた。平成20年度は下記のように開催した。

会場：神戸市立小磯良平記念美術館、会期：2008（平成20）年7月19日（土）～8月31日（日）

主催：東京国立博物館、東京文化財研究所、神戸市立小磯良平記念美術館、神戸新聞社、開催日数：38日

入場者：18,757人、陳列点数：油彩・パステル画85点、素描62点、写生帖17冊、書簡4通、日記5冊、参考出品2点、記録写真16点（以上、黒田記念館所蔵作品）、図録：A4版変形、182ページ

また会期中の2008（平成20）年7月27日（日）、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、161人から回答を得た（入館者数279人に対して、回収率57.7%）。満足度として「満足」、「おおむね満足」の回答が、100%をしめた。

作品貸与は以下の2件8点である。

黒田清輝「編物」「残雪」「昔語り下絵（構図Ⅱ）」（以上油彩画）：「明治の洋画」展（茨城県近代美術館、08.8.2-9.23）1件3点

満谷国四郎「提灯」「娘習作」「娘習作」（以上油彩）、「人物」「写生帖」（以上素描）：「五姓田のすべて—近代絵画への架け橋」展（神奈川県立歴史博物館 08.8.9-9.28）1件5点

研究組織

○田中淳、山梨絵美子、塩谷純、綿田稔、皿井舞（以上、企画情報部）